



愛知県防災航空隊

県民の生命と財産を守るために

設立のきっかけはあの震災

愛知県防災航空隊は、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を機に、県民の尊い生命と貴重な財産を守るため平成8年4月に発足し、同年10月に防災ヘリコプター「わかしゃち」の運航を開始しました。「若鯰」の「若」は行動力を表し、「鯰」は水を呼ぶといわれ、火災を鎮圧するという意味で、防災を象徴することが由来です。

愛知県防災航空隊は、全国的にも数少ない24時間体制で運航しており、救助活動のほか、火災防御活動や救急患者の搬送なども行っています。



▲愛知県防災ヘリコプター「わかしゃち」

田原市消防本部との連携

愛知県防災航空隊の隊員は、主に県内の消防本部の職員が派遣されており、これまで田原市消防本部から2名の隊員が派遣され、それぞれ副隊長を務めました。

また、「わかしゃち」の燃料タンクには、およそ1200ℓのジェット燃料を搭載できますが、活動が長時間になると、燃料補給が必要になります。このため、災害現場の近くで速やかに燃料補給を行うため、愛知県内には燃料備蓄基地が6カ所設置されています。そのうち一つが田原市消防署にあり、合計600ℓがドラム缶で保管されています。「わかしゃち」が、田原市やその周辺で活動運航中に燃料補給が必要となった場合は、田原市に連絡があり、消防署員が場外離着陸場の調整や燃料補給支援を行っています。



●備蓄燃料による燃料補給



▲燃料備蓄基地 (田原市消防署)

このほか、9月と11月には、田原市と愛知県防災航空隊との合同訓練を予定しています。地上から接近できない場所にいる要救助者をホイ

トという装置で吊り上げる訓練や、ヘリコプターの夜間離発着訓練などを行います。

今後も市民の皆さんの生命と財産

を守るために、愛知県防災航空隊と緊密に連携していきます。



●夜間離発着訓練の様子

就航から20年、新たな機体へ

これまでさまざまな現場で活躍してきた「わかしゃち」は、就航から20年の活動を終え、平成29年度に新たな機体にバトンを渡すことになりました。現在、県民の皆さんに親しまれる愛称を募集していますので、ぜひご応募ください。

応募期限：9月30日(金) 応募方法：

- ①愛称 ②愛称の理由・由来など ③住所 ④氏名 ⑤電話番号 ⑥勤務先または学校名を記入の上、FAX・Eメール・はがきにて

※詳細は愛知県HPをご覧ください。

▼愛知県防災航空隊

☎(0568)293321

🌐 <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/shobohoan/aisho.html>